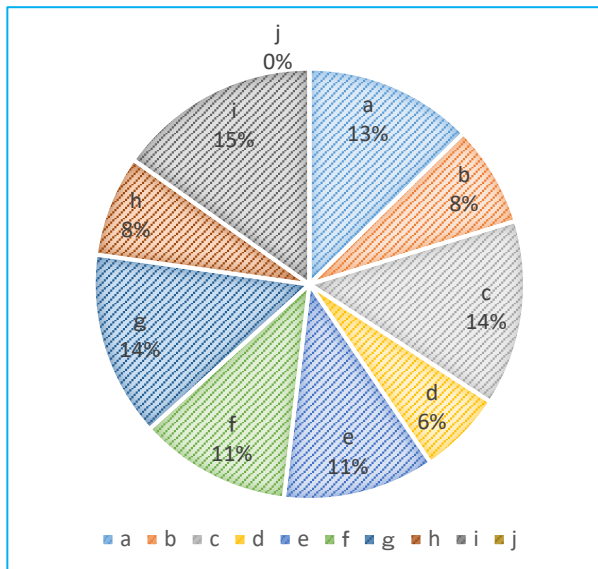


第23回 FDフォーラム
「合理的配慮の義務化に伴う学生対応の在り方について」
アンケート集計結果 (2023.12.14)

参加者 210名

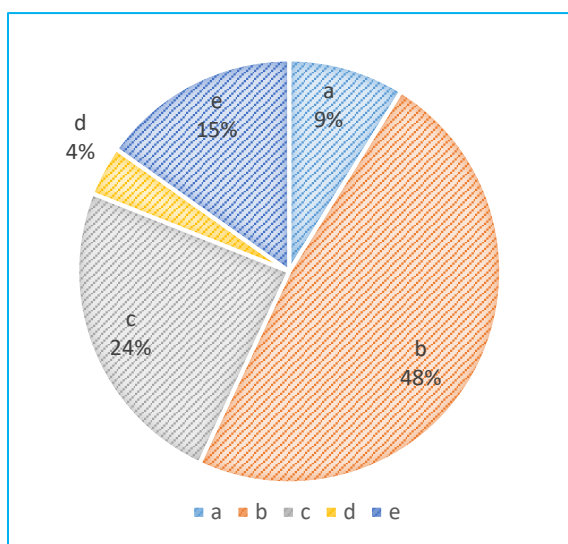
1. 先生の所属を教えてください (必須)



- a. 法学部
- b. 経済学部
- c. 経営学部
- d. 現代中国学部
- e. 国際コミュニケーション学部
- f. 文学部
- g. 地域政策学部
- h. 短期大学部
- i. 事務職員
- j. 上記以外

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	計
10	6	11	5	9	9	11	6	12	0	79

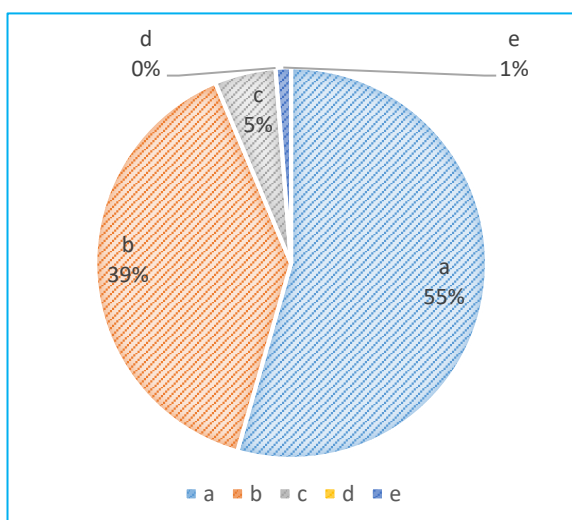
2. 差し支えなければご担当されている科目 (区分) を教えてください



- a. 共通教育科目
- b. 専門教育科目
- c. 両方
- d. 未回答 (事務職員)
- e. 未回答 (教員)

a	b	c	d	e	計
7	38	19	3	12	79

3. 本講演はいかがでしたか



- a.大変良かった（大変参考になった）
- b.良かった（参考になった）
- c.どちらともいえない（ふつう）
- d.あまり良くなかった（あまり参考にならなかった）
- e.良くなかった

a	b	c	d	e	計
43	31	4	0	1	79

4. その理由をお伺いします。またご意見、ご感想をご記入ください。

（質問や疑問点等がある場合は次の設問 5 でご記入ください）

●「a.大変良かった（大変参考になった）」と答えた人のコメント

- ◇ 全教職員に合理的配慮について、基本的な知識を得る機会が得られてよかった。
- ◇ 考え方
- ◇ 合理的配慮が、何か新たにサービスを提供するのではなく、すでに生じている差別・障壁を、本来の（誰もが権利を行使できる）形に戻すというニュアンスだということが理解できた。
- ◇ 本質的な話と、具体的話があり、大変参考になりました。
- ◇ 話がとても分かりやすく、テンポもよかった。「合理的配慮」とは何かがよく理解できた。
- ◇ 合理的配慮について漠然とした理解を持っていたが、相当程度クリアな理解を得ることができた。
- ◇ 簡潔ながらとても分かりやすく説明されていました。
- ◇ 体系的に理解できた。
- ◇ 合理的配慮に関して、理解を深化することができた。
- ◇ 将来、身体的な問題を抱えた生徒をどう扱うか、何が予想されるかを知るのに役立った。
- ◇ 非常にわかりやすいお話で、国の施策を受けて大学としてどのような対応をすべきなのか、大変勉強になりまた参考にもなりました。ありがとうございました。ところで、当方法科大学院教員ですが、ラジオボタンの所属一覧に「法科大学院」がありませんでした。ただ、所属を入力しないと回答を送信できないようですので、仕方なく最も専門に近い法学部としております。ご容赦ください。
- ◇ 合理的配慮を一学生への支援と捉えていたため、考えを改める機会となりました。
- ◇ 「合理的配慮」を、障害学生へのサポートだと考え、自分に何ができるだろうと仰々しく考えていましたが、例えば紙媒体ではなくデータファイルを提供するなど、簡単にできる範囲から始められるということが印象に
- ◇ 「障がいのある人」と定義された学生がサポートの対象者ではなく、学習の主体であるという点が興味深かったですし、共感しました。
- ◇ 合理的配慮に関する考え方について、非常によく分かりました。
- ◇ 本学の場合、教職員の通常業務を守りつつ、ユニバーサルな文化として合理的配慮を作り上げていくことであるとの指摘で、強い義務感から解放され、気持ちが楽になりました。私自身、かつて自閉症の学生、身体障害を持つ学生 2 名を 4 年間受け入れ教育指導してきました。その際の親の期待が大きく、大学での教育や学生生活支援に大きな負担を生んだことを記憶しています。しかし、本日のお話を聞いて、構えて対応する必要がないことを学びました。リラックスできたことで、通常の教育研究指導の中で受けとめ、今後の対応準備を進めたいと考えていきたいと思えます。

- ◇ これまでも学生の要望や状況に合わせて、授業内容と評価の公平性を担保できる範囲内で、合理的配慮に努めてきたつもりでしたが、そうした行動が間違っていなかったと勇気をいただけた気がします。さらにいつもの改善に努めながら、これからも学生個人によりそった教育サービスを提供したいと思います。
- ◇ とてもわかりやすいお話をしていただき、ありがとうございました。「合理的配慮」について理解することができ
- ◇ 私自身不確かだった「障害」「支援」「教育」の視点から、「合理的配慮」の内容がとてもクリアになりました。ありがとうございました。
- ◇ 新しい組織（学生生活支援室）に期待しております。
- ◇ 実務的な講演でした。ただ個別の事情など様々なケースに対応するには、やはり専門の方のアドバイスが欲しいと考えます。
- ◇ 大変わかりやすくお話しいただきありがとうございました。現在障害を持つ学生への対応に苦慮しておりますが、環境を考えていく必要があるという点に納得してお話を伺いました。
- ◇ 合理的配慮について、多くの教職員の共通理解を図る機会となったと思われるから。
- ◇ 学内で共通理解が深まるきっかけとなった。
- ◇ 今後の自身の学生対応に関する新たな課題を把握することができたためです。
- ◇ 「合理的配慮」の内容が良く理解できました。
- ◇ 分かりやすく、内容の濃いお話をいただいたからです。「合理的配慮」の定義を適切に解釈する上でのポイント、欧米や京大での事例などよく理解することができました。
- ◇ 障害の意味が分かり、アコモデーションに共感することになりました。
- ◇ 内容豊富しかも非常に具体的な話。
- ◇ 合理的配慮の義務化ということで、障害をもっている学生に対していろいろな配慮や支援をしないといけないと思っていたが、他の学生との差が生じないように障壁を取り除くという点での配慮をする、ということが自分なりに認識できたので良かったです。

●「b.良かった（参考になった）」と答えた人のコメント

- ◇ 合理的配慮について基本的なことが理解できたため。
- ◇ すでに実施している・知っていることがメインだったが、今後の議論の方向性や海外の事例等が大変参考に
- ◇ いわゆる「学習障害」学生を支援対象でなく、学びの主体であると位置づけることは理想的だとも考えていたが、むしろそのために愛大としてどうすべきか、考える機会となった。
- ◇ もう少し具体的に知りたい。例えば板書形式の講義はそのままでもいいのかなど。
- ◇ これまでの想定以上に、「障害」の範囲が広いことなど、基本事項について理解が進んだ。いろいろとこれからの課題が多いですね。
- ◇ 公に認識されていない発達障害の学生に対しても対応する義務が出てくると思い、これから大変になると思った。障害のある学生との建設的対応が重要であることがわかった。
- ◇ 差し支えない範囲で、どのような合理的配慮の例があるか等をもう少し知りたかったです。大学は「支援」をする必要はない、という言葉には納得させられました。
- ◇ 合理的配慮について基本的な考えを理解することができた。
- ◇ 先日、学生の保護者からの大学への意見を読んだ。その中で大学でも発達障害の学生向けの支援、情報発信してほしいという要望があった。とはいえ大学だけで支援しても、それまでの発達段階での適切な支援もあるだろうと考えていたので、小中高との支援の接続を考えていくことが必要で、その接続をどのように構築するのが課題だろうと再認識した。
- ◇ 身内が他大学の障がい者支援部署で仕事をしていたため合理的配慮に対する予備知識が多少あったが、その知識の確認ができた点がよかった。
- ◇ 合理的配慮の考えから教えていただき大変ありがたかったです。学生対応のため、途中から拝聴できず、とても残念です。是非、再度拝聴できる機会をいただけるとありがたいです。
- ◇ 具体的な実施例が聞けたから。
- ◇ 他大学や他国の障害支援の現状を知ることができた。
- ◇ 合理的配慮の考え方を少しは理解することができた。確かに、大学だけではなく企業の採用や育成も含めて、就労支援（キャリア支援）は遅れているように思う。ただ、企業・大学において、できることは限定さ
- ◇ 「合理的配慮」とは何か、その基本姿勢を知ることができたことは、大きな収穫だったと思う。

- ◇ 今回の講演は、実際に合理的配慮を求められ、手探りで対応してきた教員にとって、改めてその検証をする機会となった。
- ◇ 最後の質疑で具体的な対策方法や事例の紹介があったこと
- ◇ 合理的配慮の基本的な考え方を理解できた。
- ◇ わかりやすい説明でした。
- ◇ 以前から障害のある学生の履修登録があったため、対策を考えるのに役立った。
- ◇ 配慮しなければならない内容をどのように判断すべきか、具体的に説明して下さると良かった。
- ◇ 合理的配慮を行う上での問題点や課題が分かった。
- ◇ 障害への理解や捉え方が変わりました。
また、いわゆるグレーゾーン学生への対応は難しく、知識や経験の蓄積・共有の必要性を感じました。

●「c.どちらともいえない（ふつう）」と答えた人のコメント

- ◇ オンラインで実施していただき、ありがとうございます。大変助かります。
- ◇ ご講演内容は大変良かったが、この理想が本学で実践できるとは思わない。一般論の講演より本学への直接的な助言が必要。多様な学生への対応で教員の負担が増えるばかりの現状を改善する方向へ向かう労働環境整備について知りたし、それを実践する事務体制の在り方等、具体策を知りたい。

●「e.良くなかった（参考にならなかった）」と答えた人のコメント

- ◇ 教育現場の負担を増やす話ばかり。

5. 本講演を通して質問や疑問点等があればご記入下さい。

- ◇ 京大と愛大の学生の質的相違があることは否めない。そのうえで、措置を検討すべきであろう。
- ◇ 病気で通学そのものできない学生が、オンライン講義をお願いします、と要望してきた場合？。
- ◇ こちらが認識できない発達障害に対して、どう対応していかなければならないのか、対応義務とはどこまでかが明確に知りたいと思いました。
- ◇ リスニングスキルをアップさせることが目的の授業が必修であった場合、聴覚に障害を持つ学生にどのように等しく学習機会を持ってもらうのか、文章読解が必要な授業で、視覚に障害がある学生にどのように学習機会を提供することが可能なのか、教員としていつも悩んでいます。前者の方は実際、具体的に当事者のニーズをヒアリングしながら代替教材を提供することで対応しましたが、当該学生は結局途中から授業を欠席することが多くなり、あえなく落第にせざるを得なかったことがあります。こういった場合、どのように「支援」ではなく「合理的配慮」を行うのか、先生のお考えをお尋ねしたいです。
- ◇ 合理的配慮について、理念レベルでの共通理解を進めていく一方で、大学としてこの問題に対処する組織（部署）の整備をどのように進めればよいかという点も重要であると思われる。
- ◇ (1)本学における障害者支援の現状と課題についての客観的分析。その上での提言をお聞きたい。
(2)今後の本学における障害者支援の取り組みについて、支援センター等の構想も含めて加納副学長に聞きたい。
- ◇ 教育的配慮の一部に合理的配慮が位置付けられていますが、その切り分けはどのようになりますでしょうか。「障害のある」を障害者手帳の所有で切り分けてしまうことはできないと考えています。
現状では、マンパワーもないままに教育的配慮が求められるケースが多々あり、先生方にお願するウエイトが増えることで「配慮」という言葉がマイナスな印象になりかねないと危惧しています。
- ◇ 発達障害や精神障害の学生に対して、現場の教員が適切に対応するのは不可能であり、非現実的。
- ◇ 個別具体的な対応事例をもう少しお聞きしたかったです。
- ◇ 注意欠陥多動性障害などで何度注意・助言しても自分の特性を理解できずに同じ失敗を繰り返す（例 締切が守れない、ルールにしたがったレポートがかけない）学生をどのように指導すればよいか、具体的に教えていただきたかったです。
- ◇ 特にありませんが、時間は守って欲しい。
- ◇ ご講演内容ではありませんが、このアンケートについての疑義を書いております。所属を答えさせる必要は

- ないのではないのでしょうか。短期大学部は8名（1名は特任で授業しかしないので実質7名）です。記入内容で個人が特定される懸念があります。回答内容によって今後の執行部との関係への影響が思い浮かび回答がためらわれます。この欄のこの回答へも不安を抱えながら書いていますが申し上げずにはおら
- ◇ 講演で言及された各種の「精神的障害」について、教員はどのようにして知見を深めれば良いでしょう
 - ◇ 法改正もあり、様々な種類や程度の障害を抱える学生へのユニバーサルな対応を、とのことだが、正答が一つでない難しい課題でもあると考える。これから増えるであろう対象者の個々の事例に沿いつつ、ケースバイケースで対応しながら大学として経験を蓄積していくことが重要に思う。一教員が抱える問題では決してなく、大学全体（教員だけでなく、在学生も巻き込んで）の意識改革が求められるだろうか。
 - ◇ 話を聞いてなるほどと思うものの、実際に対応を迫られた場合はどうなるのだろうかと思う。
 - ◇ 具体的な対応については、意見が分かれる場合もあると思う。

6. 今後、どのようなテーマを希望されますか

- ◇ 1 学力評価の方法論について 2 大学史
- ◇ 障害者への対応義務の具体例など
- ◇ 今回のような学生支援にかかわるようなテーマは非常に良かった。今後もこの路線を保って欲しい。
- ◇ 大学の授業実践、取り組みの紹介
- ◇ AIの普及が学習効果に与える影響について
- ◇ メタバースと大学教育のようなテクノロジーの発展との関わりで捉える近未来の大学教育
- ◇ 文科省の官僚たちが作成したポンチ絵から適当に拾ってほしい。
- ◇ 教員の心身を守る労働環境のありかたについて。現状での就労は限界です。執行部に真剣に考えてもらえる労働環境整備に関するテーマをお願いします。働き甲斐のある職場環境の整備を！
- ◇ 今回のテーマに関する他大学の現状と課題
- ◇ スマホの過剰使用が学習に及ぼす影響とその対処方策について
- ◇ 理念（理論）だけでなく、現場（実践）とも関わるテーマ
- ◇ AI時代に向けた研究/教育/指導のあり方
- ◇ 学習支援センターに任せます。
- ◇ 偏差値を上げるための対策
- ◇ 授業の質保証。学生に対して、最低限ここまでの授業を行うべきという現在の動向を講演してほしい。
- ◇ 学生支援系
- ◇ いわゆるZ世代の学生の思考や興味・関心などを知りたいですし、何がウケて何がウケないのかなど、若者に響くことを考える機会が欲しいと思っています。例えば広告代理店や出版関係の方で、わかもの文化などに詳しい方などの話を聞いてみたいと感じます。